

# 広報 とくしま

## Contents ~今月の内容~

人々が呼び覚ました戦国の記憶 国指定史跡・増山城跡……………2	こどもの広場……………21
イベントレポート……………6	となみの福祉……………22
ホットな話題……………8	体協だより……………25
くらしの情報(くらし・行政)……………10	文化となみ……………26
くらしの情報(講座・教室)……………14	文化会館……………28
公共事業発注状況……………17	美術館……………29
みんなの健康、健康カレンダー……………18	チューリップ四季彩館……………30
砺波総合病院から……………20	図書館……………31
	イベント案内……………32

No.58 平成21年  
2009 9 月号



庄川と散居に広がる健康フラワー都市

増山城跡が国指定史跡に  
→ 2~5頁に特集記事



回覧 みんなで読んでね

人々が呼び覚ました戦国の記憶

# 国指定史跡・増山城跡

富山県を代表する中世城郭である増山城跡が、7月23日、砺波市で初めて国の史跡に指定されました。指定は、その県内屈指の規模や、良好な状態で保存されている遺構の数々の歴史的価値、そして、戦国期から織豊期に北陸地方での覇権形成に果たした役割の重要性を高く評価したものです。

増山城跡はいよいよ全国の人々の知るところとなりましたが、その詳細が明らかになるまでには、郷土の遺跡の調査や整備にかける人々の熱意がありました。

増山城は、砺波市の梅檀野地区にある戦国期の「山城」です。

一般的に城は、立地条件によって①平城（名古屋城、二条城など）、②平山城（姫路城、仙台城）、③山城（高取城、備中松山城など）に分類されます。増山城などの山城は、山そのものに普請（土木工事）を加え、郭や堀などの防御施設を作り出すタイプの城です。富山県内には大小400以上の城があるといわれていますが、増山城は、その中でも規模や歴史的重要性などの面で群を抜いており、松倉城（魚津市）、守山城（高岡市）とともに越中三天山城と称されています。

増山城の歴史は古く、南北朝時代（14世紀）に遡ります。貞治元年

（1362）に二宮阿阿が「和田城」（増山城の前身）を警護したと当時の文献に初見されます。その後、神保氏の居城となりますが、一向一揆や上杉謙信、織田信長の軍勢、佐々成政、前田利家の勢力が、越中の覇権を争ってこの城に関わりました。

遺跡は、かけがえのない先人の遺産ですが、何もしなければ埋もれてしまいます。中国の詩人・杜甫の有名な漢詩に「国破れて山河在り 城春にして草木深し」という一節があります。戦国の世から400年、増山城は、梅檀野の森の中でひっそりと佇んでいます。今日、増山城が人々の注目を集める存在となりえた陰には、その価値を掘り起こした多くの人々の関わりがあったのです。

## 人々がまいた調査の種

増山城跡は、栴檀野村役場からの申請により昭和23年に富山県の史跡に指定されました。それ以降、県指定史跡としての重要性は認められていたものの、専門的かつ組織的な調査が実施されることはなく、中世山城としての本来の価値は明らかにされてきませんでした。

それは、城を理解するために越えなければならぬ2つの大きな「山」があったからです。一つは戦国期の情勢が複雑であったことや、関係する史料が少なかったことから、歴史の把握が困

難であったこと。もう一つは、広大な城跡を踏査実測するためには、長い時間と多大な労力を要することでした。

この状況を打破したのが、砺波郷土資料館が中心となって昭和62年に開始した調査です。当時『砺波市史』の編纂を進めていた同資料館は、増山城に関する文献史料を調査しその歴史上の位置づけを行うことや、増山城の城域を確定しその縄張図（城の構造を示した図）を作成することなどを計画。城郭、文献史学、考古学の3分野の研究者から成る「増山城跡調査グループ」を組織し、専門的な調査に乗り出しました。

## 調査は驚きと感心の連続



「土蔵友の会」の  
会員として  
調査に参加された  
高木 美奈子さん  
(千保)

私は、専門家の先生の解説を聞きながら、ポールを持ってポイントに立ったり、巻尺で距離を測るなど、縄張図作成のお手伝いをさせていただきました。調査中は、山全体が防御施設となっていたことや、主郭周辺に堅堀、空堀などが縦横無尽にあったことなどに驚いたり、感心したりの連続でした。縄張図が出来上がっていくのがうれしくて、雨が降ろうとも、少々寒かろうとも、元気に駆けずり回っていましたね。

増山城跡は、南北朝の時代からの歴史や伝説、そして遺構などがタイムカプセルにそのまま詰め込まれて残されているような貴重な歴史遺産です。遺構の数々は、先人たちがその時代と真剣に向きあってきたことの証。より多くの方に見ていただきたい、伝えていきたいと思います。



調査参加者の皆さん

この調査の特徴は、ボランティアの積極的な協力が寄せられていたことです。行政機関が計画した調査でありながら、砺波郷土資料館のもとに集まった「土蔵友の会」の会員や、地元増山地区の住民など一般の人々が大勢参加しており、実質的には、その協力が大きな戦力となっていたのです。

調査は、休日を中心に、草などが繁茂する季節を避けて行われましたが、参加したメンバーは、休日を返上し、雨や雪、寒風吹きすさぶ日にも、手弁当で調査に協力しました。

調査は、当初、3か年計画で始めましたが、城跡の規模の大きさ、縄張りの複雑さ、城域内の遺構の広がりなどが予想を上回るものであったため、調査期間が1年間延長。平成2年まで

の4年間、増山城跡一帯で、文字通り草の根をかき分けるようにして、尾根筋や谷筋の踏査や測量などが行われました。実施された現地調査などの回数は22回、参加人数は延べ166名にのぼります。

このような地道な調査が積み重ねられた結果、二重の堀切や櫓台、長大な堅堀、新たな城郭など、重要な遺構の実態が次々に明らかになりました。そしてついに、待望の増山城全体の縄張図が完成したのです。

また、この調査は、増山城跡の整備の取り組みを活発化する契機ともなりました。地元増山地区で、「増山城跡県定公園整備検討委員会」が組織されたのです。同地区民の皆さんは、毎年春には倒木の処理を、そして夏には遊歩道の整備を行うなど、現在もなお、地区をあげて城跡の整備や保全に努めておられます。



測量調査の様子

## 「増山城跡総合調査」の成果 増山城跡測量図



高岡徹氏（城郭研究家）が作成した縄張図をもとに作成した測量図です。

城の中心部には、二の丸（主郭）を囲むように一の丸、安室屋敷、三の丸、無常など重要な郭が配されています。さらに、二の丸の周囲には、幅16m、深さ10mの空堀が掘られており、二重三重の防御システムが構築されていました。このように、山全体を土木工事によって改変し、巧みに要塞化させていたのです。

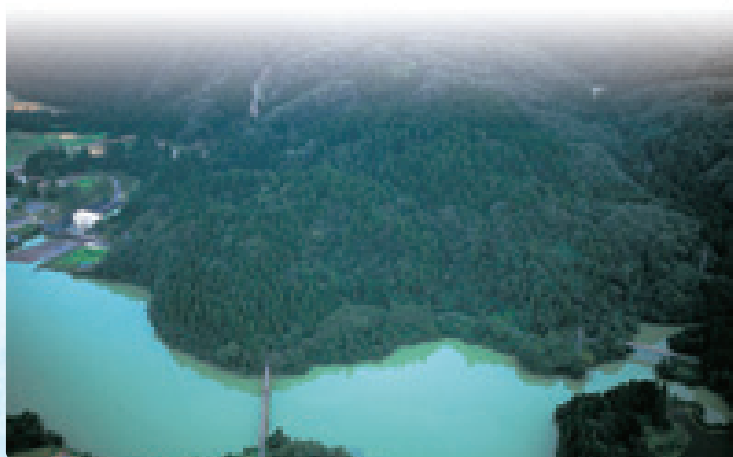
かつて“越後の虎”と呼ばれた上杉謙信も、書状に「増山之事 元来嶮難之地」と記しており、その堅牢ぶりを警戒していたことをうかがわせます。

郭の周囲を長大な堀切で守っています

前述の調査により増山城の遺構の概要が初めて明らかにされましたが、城の構造や年代、郭の性格を解明するためのもっとも有効な方法である発掘調査は行われず、今後の課題として残されました。

そして平成9年、砺波市教育委員会は、残された課題に取り組み、これまでの調査の流れを発展継承する「増山城跡総合調査」に着手します。この調査では、発掘調査を行うほか、縄張構造の解明をさらに進めるため、従来よりも詳細な地形図と縄張図を作成することとしました。

### 増山城跡総合調査で 花ひらく



### 地区として保存活動を



増山自治会長・  
増山城跡県定公園  
整備検討委員会  
前委員長  
宮野 秀一さん  
(増山)

増山地区の人々は、昔から、増山城跡の山に非常に強い愛着をもっていました。山菜採りをしたり、杉の枝打ちや雑木の処理をしたりと、大半の皆さんが山に登っていましたね。

昭和62年に始まった調査は、とても意義のあるものでした。新聞にも取り上げられ、地区の皆さんも、調査がきっかけで城跡の価値を認識するようになったと思います。そして、増山自治会として保存活動ができないかということで、平成5年に「増山城跡県定公園整備検討委員会」を設立したのです。委員会では、城跡に対する地区民の意識調査や、県外の山城の保存・活用の取り組みの視察などを行ってきました。また、倒木や雑木の除去作業なども毎年行っています。

増山城跡は植生が豊か。国指定史跡となりましたが、特別に立派な建物を建てるとかではなく、現在のような状態を保ちながら大切にしていけたらと思います。

## 増山城跡の自然を大切に



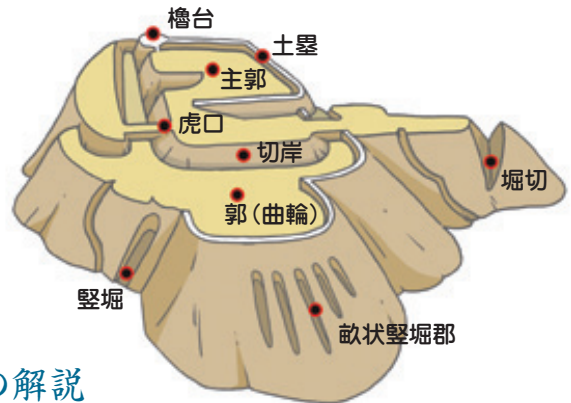
増山青年団長  
土倉 弘嗣さん  
(増山)

増山青年団では、毎年、増山城跡内の側溝の掃除や、桜の害虫防除、遊歩道の草刈りなどを行っています。それは、正確な時期はわかりませんが、ずっと前からこのことのように、私の父も携っていました。住んでいる地域に歴史的価値のある遺跡があるというのは、うれしいことです。近年、青年団員が徐々に少なくなっていますが、大事なことだと思って取り組んでいます。

私たちは、小さい頃から、増山城跡の中に入って遊んでいました。杉の木の立ち方など城跡の様子は以前と何も変わりません。来られる方には、増山城跡の自然を満喫していただきたいと思ひますし、また、大切にさせていただきたいですね。



今年7月に行われた草刈りの様子



## 遺構の解説

- 郭** ……「曲輪」とも書きます。斜面を削って平らにした平坦面です。兵士が駐屯する建物や、食料、武器などを保管する倉庫などが設置されていたと考えられています。
- 堀切** ……尾根を断ち切るように掘られた堀です。敵が尾根づたいに城の中心部に侵攻するのを防ぎます。
- 堅堀** ……斜面を掘って設けた溝で、敵の横移動を防ぎます。また、一列になって上ることを余儀なくされた敵を攻撃する際に有利であったと考えられています。
- 切岸** ……斜面をできるだけ垂直に近づけることで、敵を寄り付かせなくします。
- 橋台** ……郭の一角に一段高く作られた物見台です。
- 土塁** ……郭の周りに巡らせた防御堤防です。

各所の発掘調査や、全域にわたる実測、そして、それらに基づく平面図の作成には、実に7年の歳月を要しました。

そして平成15年、この調査が完了。発掘調査では、長大な堀切が付け替えられたことや、16世紀中ごろ以降に郭の造成工事が行われたことが判明するなど、縄張りの変遷のヒントをつかむことができました。また、新たに作成した測量図には、遺構の細部まで記され、城の構造をより具体的に把握できるようにになりました。

この総合調査により、城の全容解明に大きく近づいたことは間違いありません。また、調査で得られた成果は、今後、城跡を保存・活用するための基礎資料となります。

国史跡への指定で  
実を結ぶ

去る7月23日、増山城跡は、県内の山城として初めて国の史跡に指定されました。指定に至るまでには、市民グループが献身的に取り組んだ調査、そしてそれが契機となって進められた地元地区民による城跡の整備、さらには、それらの流れを受けて敢行された総合調査など、郷土の遺跡の価値の発掘にかけた人々の熱意と努力がありました。

今後の課題は、城跡の保存と活用です。それを成し遂げるためには、これから、増山城跡に関わる人々が手を携えていかなければなりません。中国の古典に「衆心城を成す」という言葉があります。人々の心が合わされば城のように堅固なものになるという意味ですが、砺波市の歴史的遺産である増山城跡をしっかりと未来へ引き継いでいくためにも、一人でも多くの人が気持ちを一つにして城跡の保存と活用に取り組んでいく必要があります。

文化財室文化財係 ☎ 82・1918

※ケーブルテレビ・デジタル092ch (アナログ2ch)の「砺波コミュニティテレビ」では、9月11日から17日まで同様の特集番組を放送します。ぜひご覧ください。